

JTU Magazine

for triathletes



the home of
triathlon

公益社団法人 日本トライアスロン連合 <JTUマガジン総合版>2015年度 Vol.1

トライアスロン2015

2015 JTU Magazine Vol.1





NTT
NTTトライアスロンジャパンカッ



FOLK



Shaklee

UEDA

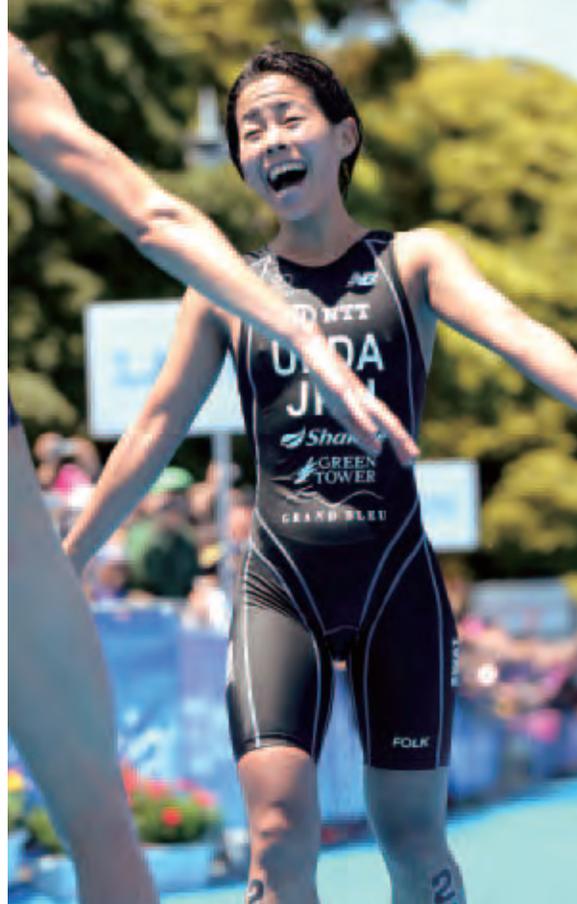
GREEN
TOWER

GRAND BLEU

SWAT
SECURITY

NTT







次のステップアップを目標に

公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU) 会長 岩城光英

昨年、創立20周年を迎えた公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU)は、一層のトライアスロンの普及と発展を目標に活動するため、今年度さまざまな方針を策定いたしました。

その一つは、1997年から18年間継続した「NTTジャパンカップランキング」を「NTTジャパンランキング」に変更したことです。これは、国際トライアスロン連合(ITU)のITUポイントを基本に、日本選手権を特別ポイントとして加えて年間ランキングを決定するものです。海外の有力大会と日本でされるアジアカップなど、トップ選手たちの実力を世界レベルで強化してまいります。

そのために、エリート男女、U23男女と四つのチームをつくり、さらに他競技からのアスリートを積極的に取り入れるトライアウトも取り入れて、選手層の厚みと質を増してまいります。

このNTTジャパンランキングと四つのチームによる選手強化は、すでに来年となった第31回夏季オリンピック競技大会/第15回夏季パラリンピック(リオ・デ・ジャネイロ/2016)、そして5年後の第32回夏季オリンピック/第16回夏季パラリンピック競技大会(東京/2020)に向けて、メダル獲得を確実なものにしていくための強化策です。

また、リオ・デ・ジャネイロでは、パラリンピックでもパラトライアスロンが正式競技となりますので、パラトライアスリートへの支援・強化も確実なものにしてまいりたいと考えます。

エイジグループの盛り上がりにも著しいものがあります。51.5kmだけでなくロングディスタンスやデュアスロン、アクアスロン、ウィンタートライアスロンには国内の大会のみならず海外の大会へも多くの参加者がおり、まさにトライアスロンブームが到来していると感じられます。

2016年には、第71回国民体育大会/2016希望郷いわて国体で、念願であったトライアスロンが正式競技になります。これを機に、一昨年より掲げている岩城ミッション「トライアスロン登録会員5万人」「500大会」「愛好者50万人」の2020年度達成に向けた取り組みや、2023年全国高等学校総合体育大会(インターハイ)への参入なども、さらに力を入れてまいります。

最後になりますが、永年にわたってご支援をいただいているNTT東日本・NTT西日本をはじめとする多くのスポンサーの皆様へ感謝申し上げます。そして大会主催者、トライアスロン愛好者、ボランティアの皆様、トライアスロンファンであるサポーターの皆様には、さらなる温かいご支援とご協力をお願いいたします。

JTU Magazine

for triathletes 公益社団法人日本トライアスロン連合 総合版 2015年度 Vol.1

contents

- 7 次のステップアップを目標に
岩城光英 公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU)会長
- 8 2015NTTトライアスロンジャパンランキング
フィールドは世界に広がった
- 12 JTUトライアスロン強化対策
世界で活躍する選手を発掘・育成する
- 20 2015年(平成27年)度JTU事業計画
日本トライアスロンのさらなる発展を目指す
- 22 2015ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会
世界でもトップクラスの大会に成長
- 24 リオ・デ・ジャネイロ、そして東京でのメダルを目指して

- 26 2015年海外主要大会 世界の大会に挑戦
- 32 2015JTUエイジグループポイントランキング
目標を明確に、レースを楽しむ
- 38 日本のトライアスロンの歴史
- 40 公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU)組織図
加盟団体(全国47都道府県競技団体)
- 44 2015年トライアスロン動向
大会運営の広がり
- 45 トライアスロン参加者・観戦者調査報告
求められる質の高い大会

2015年(平成27年)5月14日発行

発行 公益社団法人日本トライアスロン連合
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-8 第二栄来ビル
TEL 03-5469-5401(代) FAX 03-5469-5403
Email jtuoffice@jtu.or.jp ホームページ www.jtu.or.jp

編集 公益社団法人日本トライアスロン連合 事業・広報チーム
デザイン (株)アートランド
印刷 光写真印刷(株)

©(公社)日本トライアスロン連合2015

NTT Triathlon Japan Ranking



NTT triathlon Japan Ranking

フィールドは 世界に広がった

2015NTTトライアスロンジャパンランキング

1997年からスタートし、18年間継続した「NTTジャパンカップランキング」が今年から「NTTジャパンランキング」として生まれ変わる。

国際トライアスロン連合 (ITU) が発表しているITUポイントを基本に、最新の1年間の獲得ポイントに日本選手権の特別ポイントを加え年間ランキングを決定。国外の有力大会の結果も取り入れた、選手たちの真の実力が試される世界でも初の試みとなるランキングだ。

来る2016年開催のリオ・デ・ジャネイロオリンピック、そして2020年の東京オリンピックに向けて、国内外での活躍が期待される。

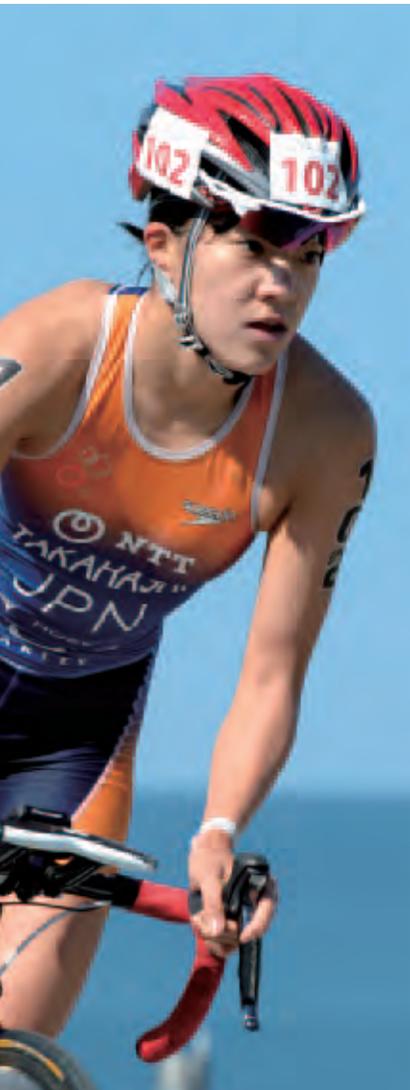




NTT Triathlon Japan Ranking

NTT triathlon Japan Ranking

2015NTTトライアスロン
ジャパンランキング



【1】対象大会とポイント加算 (2015年3月30日現在)

- レベル 1 ITU世界トライアスロンシリーズグランドファイナル ※1位1000p/1-50位に付与
- レベル 2 ITU世界トライアスロンシリーズ ※1位750p/1-50位に付与
- レベル 3 ITUワールドカップ ※1位500p/1-50位に付与
- レベル 4 ASTCアジア選手権 ※1位400p/1-40位に付与
- レベル 5 ASTCアジアスプリント選手権 ※1位300p/1-30位に付与
- レベル 6 ITU世界U23選手権 ※1位200p/1-20位に付与
- レベル 7 ITUコンチネンタルカップ・プレミアムコンチネンタルカップ ※1位200p/1-20位に付与
- レベル 8 FISU世界大学選手権 ※1位200p/1-20位に付与(実施年度のみ加算)
- レベル 9 ITU世界ジュニア選手権 ※1位100p/1-10位に付与
- レベル 10 ASTCアジアU23選手権 ※1位100p/1-10位に付与
- レベル 11 ASTCアジアジュニア選手権 ※1位50p/1-10位に付与
- 特別ポイント 第21回日本トライアスロン選手権(2015/東京港) ※1位400p/1-40位に付与

【国内対象大会】

5月16日(土)

ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会(神奈川)

6月21日(日)

蒲郡ITUトライアスロンアジアカップ(愛知)

7月12日(日)

大阪ITUトライアスロンアジアカップ(大阪/スプリント)

9月20日(日)

村上ITUトライアスロンアジアカップ(新潟)

10月11日(日)

第21回日本トライアスロン選手権東京港大会(東京)

※対象大会はこちらから
[www.jtu.or.jp/news/
2014/141216-4.html](http://www.jtu.or.jp/news/2014/141216-4.html)



(レベル1-11で高ポイントの6大会を加算(10月5日時点))+

<日本選手権の特別ポイント>=(NTTジャパンランキング決定)

【2】ポイント算出基準と方法

- 1) 2位は1位ポイントから<0.925>を乗じたポイント。3位は2位ポイントから<0.925>を乗じたポイント。以下、順に算出。
- 2) カットオフタイム(トップから女子8%、男子5%でフィニッシュ)採用。
- 3) 最新のITUポイント上位20選手に2%の係数が与えられ、最大20%の係数が大会レベルに反映される。
- 4) レベル7のITUコンチネンタルカップ・プレミアムコンチネンタルカップは最大3大会まで加算。
- 5) ITUが毎週発表する「ITUポイント」の<Current year>ポイント順が最新のジャパンランキングとなる。
- 6) NTTジャパンランキングは発表時点より過去52週間(約1年間)が対象となる。

[3]大会出場資格の付与と強化費

- 1) 2015年9月28日(月)時点のITUポイント<Current year>上位35名に、第21回日本トリアスロン選手権(2015/東京港)出場資格を付与。
- 2) ジャパンランキング1~5位(予定)にJTU強化費を支給。

[2015年ランキング] (2015年4月27日現在)

女子	男子
1位 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター) 2932.16	1位 細田 雄一(博慈会) 1413.19
2位 井出 樹里(神奈川県連合) 2719.00	2位 田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/ 流通経済大学職員) 1384.44
3位 佐藤 優香(トーンパートナーズ・ NTT東日本・NTT西日本・チームケンズ) 2511.94	3位 椿 浩平(三井住友海上) 582.78
4位 加藤友里恵(グリーンタワー・稲毛インター) 1680.84	4位 古谷 純平(三井住友海上) 517.52
5位 高橋 侑子(東京トリアスロン連合) 1480.98	5位 山本 良介(キタジマアクアティクス) 500.42
6位 蔵本 葵(東京ヴェルティ) 1057.87	6位 谷口 白羽(トヨタ車体) 491.56
7位 足立真梨子(トーンパートナーズ・チームケンズ) 868.65	7位 下村 幸平(ポーマレーシング・セノビック) 463.32
8位 川口 綾巳(ポーマレーシング・みつお産婦人科) 669.17	8位 池 隆礼(チームゴーヤ) 359.87
9位 菊池日出子(トリアスロンアカデミー福島) 544.06	9位 石塚 祥吾(日本食研) 350.47
10位 庭田 清美(千葉県トリアスロン連合) 543.29	10位 福井 英郎(トヨタ車体) 346.42
11位 崎本 智子(枚方スイミングスクール) 541.13	11位 梅田 祐輝(サンクスアイ) 292.86
12位 佐藤 千佳(湘南ベルマーレ) 528.24	12位 山下 陽裕(立教大学) 260.72
13位 佐藤 志帆(稲毛インター) 408.08	13位 高濱 邦晃(ポーマレーシング・門司地産) 253.61
14位 伊藤喜志子(稲毛インター) 315.72	14位 遠藤 樹(トヨタ車体) 243.13
15位 松本 文佳(トーンパートナーズ・チームケンズ) 309.73	15位 平松 幸盛(日本食研) 224.43
16位 蒔田亜加音(九州国際大学) 251.32	16位 小池 賢(千葉県トリアスロン連合) 190.87
17位 中島 帆波(チームケンズ京都) 198.50	17位 杉原 貴紀(流通経済大学) 171.13
18位 小原すみれ(トーンパートナーズ・チームケンズ) 185.44	18位 山本 康貴(チームケンズ京都) 115.37
19位 石田 風帆(常葉大学) 158.29	19位 渡部晃大朗(明治大学) 84.84
20位 川崎由理奈(埼玉県トリアスロン連合) 125.28	20位 青木 一磨(東京ヴェルティ) 78.47
21位 伊藤 弥生(福岡県トリアスロン連合) 99.15	21位 阿部 有希(神奈川大学) 67.15
22位 枝光 美奈(福岡県立大川柳風高校) 91.94	22位 桶谷 祐輝(島根県トリアスロン協会) 57.45
23位 西 麻依子(岐阜県トリアスロン連合) 78.47	23位 前田 隼矢(兵庫県トリアスロン協会) 49.16
24位 福田 慶(日本大学) 72.59	24位 黒尾丸真季(福岡県トリアスロン連合) 33.86
25位 久保菜 南(チームケンズ山梨) 62.11	
26位 瀬賢 楓佳(チームケンズ山梨) 46.25	
27位 阿間見 眸(日本体育大学) 39.57	

※最新のすべてのランキングはこちらから
www.jtu.or.jp/ranking/2015/japan/index.html



CHAMPION

歴代日本選手権チャンピオン

ジャパンランキング最終戦の日本トリアスロン選手権で優勝した選手には、日本選手権チャンピオンの称号が与えられる。

女子
1995 小林美智子(チームニコス)
1996 小梅川雪絵(三田工業)
1997 中西真知子(チームNTT)
1998 枇杷田深雪(大阪信愛女学院短大)
1999 小梅川雪絵(チームテイケイ)
2000 小梅川雪絵(チームテイケイ)
2001 関根 明子(NTT東日本・NTT西日本)
2002 中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)
2003 庭田 清美(アシックス・ザバス)
2004 関根 明子(NTT東日本・NTT西日本)
2005 庭田 清美(アシックス・ザバス)
2006 庭田 清美(アシックス・ザバス)
2007 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)
2008 井出 樹里(トーンパートナーズ・チームケンズ)
2009 井出 樹里(トーンパートナーズ・チームケンズ)
2010 崎本 智子(日本食研)
2011 井出 樹里(トーンパートナーズ・チームケンズ)
2012 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)
2013 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)
2014 佐藤 優香(トーンパートナーズ・チームケンズ)

男子
1995 田村 嘉規(西京味噌)
1996 山口 博久(埼玉県連合)
1997 星野 健一(千葉県連合)
1998 星野 健一(千葉県連合)
1999 小原 工(チームテイケイ)
2000 斎藤 大輝(アラコ)
2001 田山 寛豪(流通経済大学)
2002 福井 英郎(シャクリー・稲毛ITC)
2003 西内 洋行(チームテイケイ)
2004 田山 寛豪(チームテイケイ)
2005 平野 司(関西大学)
2006 田山 寛豪(チームテイケイ)
2007 田山 寛豪(チームテイケイ)
2008 田山 寛豪(流通経済大学職員・チームプレイブ)
2009 田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2010 山本 良介(トヨタ車体)
2011 細田 雄一(グリーンタワー・稲毛インター)
2012 田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2013 田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2014 田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)

歴代NTTトリアスロンジャパンカップチャンピオン

女子	男子
1997 半田 恵理(東京女子体育大学)	小原 工(チームテイケイ)
1998 庭田 清美(シャクリー・NTT・稲毛)	小原 工(チームテイケイ)
1999 細谷はるな(ニテック)/ 平尾 明子(NTT東日本・NTT西日本)	小原 工(チームテイケイ)
2000 小梅川雪絵(チームテイケイ)	西内 洋行(チームテイケイ)
2001 関根 明子(NTT東日本・NTT西日本)	山本 淳一(シャクリー・稲毛ITC)
2002 中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)	西内 洋行(チームテイケイ)
2003 中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)	西内 洋行(チームテイケイ)
2004 関根 明子(NTT東日本・NTT西日本)	平野 司(関西大学)
2005 上田 藍(グリーンタワー・稲毛ITC)	細田 雄一(グリーンタワー・稲毛ITC)
2006 中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)	杉本 宏樹(チームテイケイ)
2007 関根 明子(NTT東日本・NTT西日本)	山本 良介(トヨタ車体)
2008 佐藤 優香(日本橋女子館高校)	山本 良介(トヨタ車体)
2009 井出 樹里(トーンパートナーズ・チームケンズ)	田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2010 崎本 智子(日本食研)	山本 良介(トヨタ車体)
2011 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)	細田 雄一(グリーンタワー・稲毛インター)
2012 高橋 侑子(法政大学)	田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2013 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)	田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)
2014 上田 藍(シャクリーグリーンタワー・稲毛インター)	田山 寛豪(NTT東日本・NTT西日本/流通経済大学職員)

JTUパラトライアスロン 強化対策

世界で活躍する選手を発掘・育成する



リオ五輪日本代表選手選考基準

JTU強化チームでは、2016年(平成28年)にリオ・デ・ジャネイロで開催される第31回夏季オリンピック競技大会に向け、日本代表選手選考基準の基本方針を作成。メダル獲得を最大目標とした選手選考を行う。

第31回夏季オリンピック競技大会

(2016/リオ・デ・ジャネイロ)

<開催日>

男子：2016年8月18日(木)

女子：2016年8月20日(土)

<選考の基本方針(次のいずれか)>

- 1) 総合力：目標を達成する成績を残せる選手の選出
- 2) レース展開：第1集団でのレースを展開できる選手の選出
- 3) 東京2020：東京オリンピック有望選手からの選出

選考基準などオリンピック関連の最新情報は以下より
www.jtu.or.jp/olympics/rio/



2015年JTUパラトライアスロン 強化指定選手制度

リオ・デ・ジャネイロ・パラリンピックの実施カテゴリーが決定したことを受け、JTUパラリンピック対策プロジェクト(パラ対策PJ)ではパラトライアスロンの強化指定選手制度を以下のように改定した。

<対象選手と認定期間>

対象選手：日本国籍を有し、ITU主催レースへの出場資格を有するJTU登録選手

認定期間：2014年12月1日～2015年11月末日まで。ただし、今後のルール変更や大会の成績によって、期間中であっても改訂されることがある

<認定内容と認定手順>

パラ対策PJにおいてA指定選手、B指定選手、C指定選手を選考し、理事会承認により認定する。大会の評価は、(1) グランドファイナル(GF)、(2) 世界パラトライアスロンイベント(WPE)、(3) アジア選手権、(4) 日本選手権(開催未定)、(5) 国内パラトライアスロン大会の順に優先する。また、その



評価に際しては、レース会場やクラシフィケーションの諸条件などの結果を考慮する場合がある

<認定基準>

2014年11月末日時点で、以下を満たすものを各々の強化指定に認定する

1) A指定：下記I、IIの両方を満たす

- I) リオデジャネイロ・パラリンピックの実施カテゴリーの選手
- II) ITU Paratriathlon Rankingsに掲出されており、かつGF、WPEにおいて1位からカットオフタイム10%以内とする。出場したGF、WPEの同カテゴリーにおける出場者が1名だった場合、ITU Paratriathlon Rankings1位選手が他のGF、WPEで記録したタイムを基準にカットオフタイム10%以内とする

2) B指定：下記I、IIの両方を満たす

- I) A指定以外で、リオデジャネイロ・パラリンピックの実施カテゴリーの選手
- II) ITU Paratriathlon Rankingsに掲出されており、かつGF、WPEにおいて1位からカットオフタイム20%以内とする。出場したGF、WPEの同カテゴリーにおける出場者が1名だっ

た場合、ITU Paratriathlon Rankings1位選手が他のGF、WPEで記録したタイムを基準にカットオフタイム20%以内とする

3) C指定：下記I、IIのどちらかを満たす

- I) A指定およびB指定以外で、ITU Paratriathlon Rankingsに掲出されている選手
- II) 他競技種目の実績や国内外パラトライアスロンレースの成績によりバラ対策PJが判断する

<参加資格>

- 1) GF、WPE、アジア選手権、強化合宿等への参加資格、推薦資格は別に設ける
- 2) 強化指定選手以外の選手からも、申請によりGF、WPE、アジア選手権、強化合宿等の推薦を行う場合がある（推薦依頼の申請）

※パラトライアスロン強化指定選手についてはこちらから
[www.jtu.or.jp/top_athlete/
index_paratriathlon.html](http://www.jtu.or.jp/top_athlete/index_paratriathlon.html)



JTUトライアスロン アカデミープロジェクト

JTUでは、将来のオリンピックメダリストを育成するための「JTUトライアスロン・タレント発掘プロジェクト」(一貫指導システム、全国強化拠点、スカウティング)の事業として、次世代のタレントを発掘して「アカデミー選手」に認定し、トライアスロン競技の専門性を高める特別な育成・強化を実施している。

2014年は小原すみれ(トーシンパートナーズ・チームケンズ)、杉原有紀、瀬賀楓佳、久保埜南(ともにチームケンズ山梨)の4名がアカデミー選手として認定され、JTUによるサポートを受けた。

本年は2月21日(土)に関西(京都)、3月15日(日)に関東(山梨)でそれぞれセレクションを開催。参加選手の中からアカデミー選手を選出し、来る2020年の東京オリンピックを見据えたサポートを行っていく。



JTUトライアスロン 強化対策

世界で活躍する選手を発掘・育成する



<サポート内容>

1. JTU強化拠点での特別プログラム提供
2. 合宿費・遠征費などの活動支援
3. 学業・生活拠点などの活動サポート
4. バイクなど機材の提供
5. その他、特別強化に関わる諸事業の展開

<認定基準>

対象：16-19歳（当該年12月31日現在）で、日本国籍を有するJTU登録選手

審査：

- ・アカデミー選考記録会（スイム400m/ラン3,000m）
- ・適正診断
- ・面接（本人）
- ・最終選考 最終面接（本人・保護者）

期間：認定開始日から20歳（当該年12月31日現在）になるまで

支援：当該選手の活動するJTU強化拠点（アカデミー拠点のみ）での支援を行う。

- 1) JTUエリート強化A指定選手：四半期/1名
- 2) JTUエリート強化B指定選手：四半期/1名
- 3) JTUアカデミー選手：四半期/1名

<2014年アカデミー選手戦績>

日程	主な活動および出場大会	結果	対象選手
6月1日(日)	ASTCアジアジュニア選手権	優勝	小原すみれ
6月2日(月)	ASTCアジアジュニア選手権 ミックスリレー	優勝	小原すみれ
7月6日(日)	日本スプリント選手権	2位 3位 9位	小原すみれ 杉原 有紀 瀬賀 楓佳
7月13日(日)	ITUアジアカップ大阪	6位	小原すみれ
8月3日(日)	日本U19選手権	6位 7位	杉原 有紀 瀬賀 楓佳
8月17日(日)	第2回ユースオリンピック 競技大会(2014/南京)	5位	瀬賀 楓佳
8月29日(金)	ITU世界ジュニア選手権	28位 42位 50位	小原すみれ 瀬賀 楓佳 杉原 有紀



2015年(平成27年)度JTU事業計画

日本トライアスロンのさらなる発展を目指す

2014年(平成26年)に創立20周年を迎えたJTUでは、トライアスロンのますますの普及と発展を目指し、本年もさまざまな取り組みを実施していく。

1. トライアスロンの普及及び指導

- (1)「トライアスロン登録会員5万人計画事業」「500大会開催目標」「愛好者50万人」の2020年度達成に向けた実施 / 2023年全国高等学校総合体育大会(インターハイ)への参入
- (2) WebによるJTU登録サービスの実施
- (3) ちびっこ・ジュニアトライアスロン教室の開催(開催場所調整中)
- (4) 女子選手普及のための各種活動
- (5) Web JTUマガジンの運営及びJTUメールニュース配信による情報発信
- (6) JTUマガジンのJTU登録会員への一括送付の実施(5月予定)
- (7) JTUメンバーズカードの発行* JTU登録サービスからの簡易発行の実施
- (8)「JTUジュニア普及プログラム」「JTUジュニアトライアスロン普及合宿」実施
- (9) 国民体育大会 トライアスロン競技公開競技・正式競技の実施推奨
- (10) JTUトライアスロン・アカデミーの活動(スカウティング・セレクション等の実施: 予定)
- (11) B&G財団との提携「ウォータースポーツ・プロジェクト」「ウォータースポーツ・フェスティバル全国大会の実施(開催内容調整中)*9年目
- (12) コナミスポーツ&ライフとの法人会員契約の実施*9年目
- (13) スポーツクラブNASとのJTU会員特典プロジェクトの実施*6年目
- (14) サイクルモードインターナショナルへの出展*11年目【検討中】
- (15) 東京マラソンEXPOへの出展*4年目
- (16) JTU大会公認保険の推奨* JTUによる包括保険契約の実施*公認保険会社の変更

2. トライアスロンの日本選手権大会及びその他の競技会の開催

- (1) 第15回日本デュアスロン選手権(2015/福島)(11月8日: 福島県福島市)
- (2)「日本U15トライアスロン選手権」の開催
※JOCトライアスロンジュニアオリンピックカップ(8月2日: 岐阜県海津市)
- (3)「日本U19トライアスロン選手権」の開催
※JOCトライアスロンジュニアオリンピックカップ(8月2日: 岐阜県海津市)
- (4)「日本ロングディスタンストライアスロン選手権」の開催(9月6日: 新潟県佐渡市)
- (5)「全国高校生チャレンジトライアスロン大会」の開催(日程調整中: 東京都立川市・昭島市)
- (6)「オールキッズトライアスロン大会(小中学生)」の開催(日程調整中: 東京都立川市・昭島市)
- (7)「日本トライアスロン選手権(51.5km)」の開催(10月11日: 東京都港区)
- (8)「U23日本トライアスロン選手権」の開催(6月28日: 山形県酒田市)
- (9)「日本スプリント・トライアスロン選手権(25.75km)」の開催(7月5日: 宮城県七ヶ浜町)
- (10)「日本チームリレー・トライアスロン選手権」の開催(開催場所調整中)
- (11)「日本クロストライアスロン選手権」の開催(開催場所調整中)
- (12)「ウィンタートライアスロン・フェスタ」の開催(2月22日: 長野県白馬村)
- (13)「ロングディスタンス世界選手権日本代表選考会」の開催(6月

- 14日: 長崎県五島市、6月14日: 広島県廿日市市、9月6日: 新潟県佐渡市)
- (14) 大学生による大会の開催「日本学生トライアスロン選手権」(8月30日: 香川県観音寺市)
- (15) ちびっこ・ジュニアへのトライアスロン普及を目的とした主催大会の開催(川越全国チャレンジキッズ・福岡トライアスロンフェスタほか)
- (16) 普及を目的とした主催大会の開催(公認含む)
- (17) 東日本大震災復興支援事業(第15回日本デュアスロン選手権福島大会(11月8日: 福島県福島市)、第21回みやぎ国際トライアスロン仙台ベイセツテ大会(7月5日: 宮城県七ヶ浜町))、第17回うつくしまトライアスロン in あいづ(8月23日: 福島県会津若松市)
- (18) 全国の各後援大会への支援* JTU加盟団体を通じた申請
- (19) 全国の大会総量規制について警察庁との調整
- (20) デュアスロンカーフマンシリーズの実施
- (21) NTTジャパンランキングの実施
- (22) JTUエイジグループランキングの実施
- (23) JTUジュニアランキングの実施
- (24) JTUミドル、ロングディスタンス・ランキングの実施
- (25) JTU主催・共催・公認・後援大会におけるパラトライアスロン部門併催の推奨
- (26) 日本トライアスロン連合(JTU)公認大会制度の確立

3. トライアスロンの国際競技大会等の開催及び国際競技大会等への代表参加選手の選定及び派遣

- (1)「ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会」開催と選手派遣(5月16日、17日: 神奈川県横浜市)
- (2)「ITUパラトライアスロン国際大会」開催(5月16日、17日: 神奈川県横浜市)
- (3)「ASTCトライアスロンアジア選手権大会」ナショナルチーム派遣(6月12日、13日: チャイニーズ・ニュータイペイ)
「ASTCアジアU23選手権大会」ナショナルチーム派遣
「ASTCアジアジュニア選手権大会」ナショナルチーム派遣
- (4)「アイアンマン70.3知多常滑」開催(6月7日: 愛知県常滑市)
- (5)「アイアンマン・ジャパン北海道」開催(8月23日: 北海道洞爺湖町)
- (6)「ITUアクアスロン世界選手権」ナショナルチーム派遣と自費参加推奨(9月: アメリカ・シカゴ)
- (7)「ITU世界トライアスロンシリーズグランドファイナル」ナショナルチーム派遣(9月16日~22日: アメリカ・シカゴ)
「ITU世界U23選手権大会」ナショナルチーム派遣
「ITU世界ジュニア選手権大会」ナショナルチーム派遣
- (8)「ITUデュアスロン世界選手権」ナショナルチーム派遣と自費参加推奨(10月17日、18日、オーストラリア・アデレード)
- (9)「ITU世界ロングディスタンストライアスロン選手権」ナショナルチーム派遣と自費参加推奨(6月27日、28日: スウェーデン・ムターラ)
- (10)「ITUミックスリレートライアスロン選手権」ナショナルチーム派遣(7月18日、19日: ドイツ・ハンブルク)
- (11)「リオ・テストイベント」ナショナルチーム派遣(7月27日~8月5日: ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ)
- (12)「ITUウィンタートライアスロン世界選手権」日本代表選手参加推奨
- (13)「ITUトライアスロンアジアカップ蒲郡大会」開催(6月21日: 愛知県蒲郡市)
- (14)「ITUトライアスロンアジアカップ大阪大会」開催(7月12日: 大阪府大阪市)

- (15)「ITUトライアスロンアジアカップ村上大会」開催(9月20日：新潟県・村上市)
- (16)「ITU世界トライアスロンシリーズ」選手派遣及び支援(複数回派遣)
- (17)「ITUトライアスロンワールドカップシリーズ」選手派遣及び支援(複数回)
- (18)「ITUトライアスロンコンチネンタルカップ」選手派遣及び支援(複数回派遣)
- (19)パラトライアスロンの国際大会への派遣及び自費参加推奨と援助

4. トライアスロンの競技力向上

- (1)ナショナルチームの結成
- (2)エリート・U23・U19・U15強化合宿の開催
- (3)個別チーム海外合宿・国内合宿の支援
- (4)「JТУ認定記録会」「特別認定記録会」の開催推奨と記録の認定
- (5)「JТУ強化指定選手測定合宿」の実施(国立スポーツ科学センター(JISS))
- (6)「JТУトライアスロンアカデミープロジェクト(京都、山梨)(発掘及び育成強化)(エリート・U23/ジュニア・全国強化拠点)」事業(普及事業と運動)
- (7)「JТУセカンド・キャリアシステム」の研究
- (8)「パラトライアスロン」の研究、「パラトライアスリート」の育成強化(パラリンピック対策プロジェクトチーム)

5. トライアスロンに関する競技規則及び開催規則その他必要な規則の制定

- (1)「JТУトライアスロン競技規則」の改定・告知
- (2)「JТУルールブック」の作成・販売
- (3)「国際トライアスロン連合(ITU)の規定・基準値(競技規則、EOM: イベント主催者マニュアル、各大会選考基準他)」の簡易訳・告知
- (4)競技・運営に係るデータ・資料の告知

6. トライアスロンに関する指導者及び審判員の養成及び資格認定

- (1)「初級指導者養成講習会」の開催
- (2)「中級指導者養成講習会」の開催
- (3)「指導者資格者研修会」の開催
- (4)指導者資格に関する専門学校等との提携
- (5)「第2種、第3種審判員認定試験」の全国での実施
- (6)「審判資格更新」の全国での実施
- (7)「公認コーチ資格」の認定
- (8)「公認インストラクター制度」の規定の作成
- (9)「公認コーチマイスター制度」の規定の作成
- (10)「JТУコーチングシンポジウム」の開催(10月12日：東京都内)
- (11)JТУトライアスロン研究会の開催(日程調整中：都内)
- (12)「全国クラブ・スクール」(JТУ公認指導者の指導)の登録と紹介
- (13)「ITU国際コーチング資格」の取得促進
- (14)「ITUテクニカル資格」の取得促進

7. トライアスロンに必要な用具の製作及び検定

- (1)日本トライアスロン連合公認事業としての研究
- (2)JТУオフィシャルウェアの制作・販売
- (3)トライアスロン競技器具の検定と公認・研究<ウエットスーツ/競技自転車(含むハンドル・車輪・ヘルメット等)/競技ウェア(含むレースナンバー)/その他>
- (4)初心者向けスターターキットの研究
- (5)JТУ公認大会運営機材の開発と認定(マニュアルの制定)

8. トライアスロン競技及び安全のための研究

- (1)第5回トライアスロン・フォーラム(大会運営・大会ディレクター会議)の開催(2016年3月)
- (2)アンチ・ドーピング活動推進事業/JADAとの連携事業
- (3)メディカル委員会での選手安全管理の調査研究
- (4)技術委員会の大会運営の研究
- (5)審判委員会の審判業務勉強会
- (6)環境保全に関する研究/JOCスポーツと環境専門部会との連携/チャレンジ25キャンペーンとの運動

- (7)グリーントライアスロンの推進(横浜)
- (8)強化チームにおける戦略研究/競技力向上事業との連動
- (9)ITUレベルワン(1)テクニカルセミナー。レベルツー(2)はITUとの調整

9. トライアスロンに関する刊行物の発行等の啓発・メディア活動

- (1)公式機関誌「JТУマガジン」の発行(年1回基本)
- (2)JТУオフィシャルホームページ「ウェブJТУマガジン」の管理・運営 ※名称変更「the home of triathlon(仮称)」
- (3)「JТУメールニュース」の随時配信
- (4)トライアスロン大会・活動のメディア告知
- (5)強化チーム関連の記者発表会等の開催
- (6)強化チームによるメディア関係者との連動
- (7)報道機関、スポーツ関係団体へのニュースの配信、写真及びニュース映像の提供
- (8)メディア対策の推奨(選手へのメディアトレーニング・アーカイブの充実)
- (9)メディア専任スタッフの育成
- (10)SNS(フェイスブック・ツイッター・ブログ・インスタグラム等)の活用推進

10. 我が国のトライアスロン競技界を代表して、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会及び国際トライアスロン連合(ITU)及び関連組織団体に加盟することならびにその事業への協力

- (1)国際トライアスロン連合(ITU)総会への出席
- (2)国際トライアスロン連合(ITU)公式会議への出席(理事会等)
- (3)アジアトライアスロン同盟(ASTC)公式会議への出席
- (4)(公財)日本体育協会(JASA)公式会議への出席/派遣役員・委員の選定
- (5)(公財)日本体育協会(JASA)公認スポーツドクターの受講者推薦
- (6)(公財)日本体育協会(JASA)公認アスレティックトレーナーの受講者推薦
- (7)(公財)日本体育協会(JASA)公認スポーツ指導者制度への参画
- (8)(公財)日本オリンピック委員会(JOC)公式会議への出席/派遣役員・委員の選定
- (9)(公財)日本障がい者スポーツ協会(JSAD)、日本パラリンピック委員会(JPC)の公式会議への出席
- (10)(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)公式会議への出席
- (11)(公財)日本スポーツ仲裁機構(JSAA)公式会議への出席
- (12)内閣府のチャレンジ25キャンペーンへの加盟と活動推進
- (13)オリンピック強化指定選手、スタッフの認定
- (14)オリンピック競技大会への役員、国際審判員の派遣
- (15)ユースオリンピックゲームズへの役員派遣推進
- (16)アジア大会への役員派遣推進
- (17)世界選手権大会への役員派遣推進
- (18)トライアスロン議員連盟との連動
- (19)(公財)日本オリンピック委員会(JOC)ナショナルコーチ・アシスタントナショナルコーチの推薦
- (20)(公財)日本オリンピック委員会(JOC)専任コーチングディレクター(トップ・ジュニア)の推薦
- (21)(公財)日本オリンピック委員会(JOC)ナショナルコーチアカデミー受講者の推薦
- (22)その他関連団体、組織の公式会議への出席及び活動への参画

11. その他本会の目的を達成するための必要な事業

- (1)JТУ加盟団体支援交付金の交付
- (2)JТУ各専門委員会活動及びプロジェクトチーム活動と事業の推進
- (3)JТУオフィシャルスポンサー/オフィシャルパートナー協賛獲得のための事業
- (4)日本トライアスロン産業振興会会議(トライアスロンビジネスジャパン)の開催
- (5)東日本大震災新事業「トライアスロンネットワーク」/「がんばれ東北! がんばろう日本!」キャンペーンの継続実施
- (6)暴力行為及びハラスメント行為の根絶に向けた取り組みの実施
- (7)トライアスロン全般に係る危機管理に向けた取り組みの実施
- (8)海外トライアスロン競技団体との相互協力的体制構築の促進
- (9)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた総合的準備作業の推進

2015ITU



世界トライアスロンシリーズ 横浜大会

世界でもトップクラスの大会に成長

2015年5月16日(土)、17日(日)開催



2009年に第1回を開催以来、ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会は、大会運営ならびに競技運営の面で内外から高い評価を受け、世界でもトップクラスのイベントに成長した。

6回目となる今年は、以下の五つをテーマに掲げ、さらに充実した大会を目指している。

1 世界への情報発信

2 トライアスロンシティーの実現

3 パラトライアスロンの普及と充実

4 スポーツツーリズムの推進

5 環境に配慮した大会運営

なかでも、新しい試みとして16日(土)

の12時から50分間行われるパレードイベントは、多くの参加者と観戦者が楽しめるものとなっている。

また、参加する競技者も応援者または一般来場者も楽しめるイベントとして、山下公園のメイン会場にEXPO(エキスポ)が設定され、フードとドリンクの提供や、トライアスロン、そしてスポーツ関連グッズの販売など、多くの方たちが楽しめる設定となった。

そして、16日(土)の夜には「サンセットEXPO2015」が予定され、ライブ、抽選会なども行われてエイジとエリート選手、応援者、一般の来場者に国際交流の場を提

供する。

さらに、環境に配慮したイベントである本大会は、横浜ブルーカーボン事業の社会実験にチャレンジ。大会1カ月前イベントとして大会会場である山下公園内の清掃および、山下公園に面した海面、海底の清掃が行われた。

そのほか、横浜トライアスロンオリジナルグッズの開発や大会一カ月前から横浜がトライアスロンに染まるシティーラッピング、チャリティーエントリー、オフィシャルツアーの充実など、さまざまな面で大会を訪れる選手、応援者などが楽しんでもらえるように配慮された大会を実現させている。

エリートコース図



エイジコース図



<主要スケジュール>

5月16日(土)

時間	内容	会場
6:30 - 15:20	交通規制	バイク・ランコース
6:55 - 09:10	パラトライアスロン競技	レースコース
8:00 - 19:00	エキスポ	山下公園/エキスポ
10:06 - 12:16	エリート女子競技	山下公園前スタート
12:00 - 12:50	パレードイベント	バイクコース
12:15 - 12:30	エリート女子メダルセレモニー	山下公園/表彰ステージ
13:06 - 15:01	エリート男子競技	山下公園前スタート
15:00 - 15:15	エリート男子メダルセレモニー	山下公園/表彰ステージ
15:30	パラトライアスロンメダルセレモニー	山下公園/表彰ステージ

5月17日(日)

時間	内容	会場
7:00 - 13:00	交通規制	バイク・ランコース
7:15 - 14:00	エイジパラ、スタンダード、リレー競技	山下公園前スタート
8:00 - 15:00	エキスポ	山下公園/エキスポ
11:00 ~	スプリントディスタンス競技	レースコース
14:00	表彰式	山下公園/表彰ステージ





関根 明子

シドニー17位、
アテネ12位

残念ながらメダル獲得には至りませんでしたが、一つの目標に向かって一心に時間を捧げ、紆余曲折した経験は、現在2児の母になった今もとても大きな力と自信になっています。

どんな経験にも意味があると信じ、自分を信じ頑張ってください。



庭田 清美

シドニー14位、
アテネ14位、
北京9位

オリンピックは特別な舞台。でも特別と思いきわぬことが最大限の力を発揮する鍵かもしれません。リオ、そして東京で日の丸が揚がる日をイメージして夢に向かって頑張ってください。応援しています！



中西 真知子

アテネ20位

私にとってオリンピックは「ターニングポイント」です。代表を逃した時に諦めず、覚悟を決めオリンピックに全てを賭けたので今があります。

大人になると何かに全てを賭けられる機会はほとんどありません。ぜひ自分の決断に自信と信念をもち、どんな結果であろうと最後まで諦めず、粘り強くチャレンジしてください!!

リオ・デ・ジャネイロ、そして東京でのメダルを目指して

日本トライアスロン界は4度のオリンピックを経験した。

「オリンピックたちの声」



小原 工

シドニー21位

オリンピックとは、世界のトップを目指すアスリートにとって夢を実現させる最幸の夢舞台です。競技を行うアスリート、応援者、オリンピック関係者が一体となる場所でもあります。

日本代表になる選手には、積極性と力を出し尽くす姿、そしてメダル獲得を期待します。

私はオリンピックで、幸福感、楽しさ、厳しさ、克己心、感動、やりきった達成感などを感じました。

努力を重ねてきた自分自身を信じることを大切に、頑張ってください。



福井 英郎

シドニー36位

第32回夏季オリンピック競技大会(2020/東京)は、待ち望んだオリンピック自国開催です。この舞台を選手として迎え、挑戦出来ることをたいへん羨ましく思い、また大きな期待をしております。

すべての力を結集させ、最高の舞台を東京で!



西内 洋行

シドニー46位、
アテネ32位

私が五輪に出場したのは14年も前のことになりますが、いまはロングヘ移行、指導者の道も歩んでいます。五輪での経験は今後五輪に出場する皆さんにも大きく貢献すると思いますので、ぜひメダルを目指して頑張ってください。



足立 真梨子

ロンドン14位

私は、夢を持つことの素晴らしさをトライアスロンを通じ、学ばせていただきました。

その夢は、オリンピックでメダルへの挑戦をすること。故障続きであった私が、その夢を持ったのは、2008年の北京オリンピックでの井出樹里選手の姿でした。

それから4年後、私は観客の声援が地響きのように、それに興奮し身体が震えたロンドンオリンピックの経験をしました。

夢を持つことで、ひとはどうにでも変れる。それを学んだのが私のオリンピックです。



井出 樹里

北京5位、
ロンドン34位

「オリンピックには魔物がいる」と聞いたことがある。

けれど私はオリンピックにいるものは「魔物」ではなく「天使」だと想う。それは5位だった北京の時から34位だったロンドンの後もずっと変わらず、そう想う。



上田 藍

北京17位、
ロンドン39位

オリンピックメダル獲得を目標に掲げたことで、自分のなかにある可能性を信じる心・努力の大切さを知り、一緒に歩み・支えてくれる人たちとの出会いがありました。すべてを力に変え、リオ五輪での金メダル獲得を実現します。

第27回夏季オリンピック競技大会(シドニー/2000)で正式競技となり、第28回夏季オリンピック競技大会(アテネ/2004)、第29回夏季オリンピック競技大会(北京/2008)、第30回夏季オリンピック競技大会(ロンドン/2012)を経たトライアスロンは、第31回夏季オリ

ンピック競技大会(リオ・デ・ジャネイロ/2016)で5回目のオリンピックを迎える。

日本のオリンピックも13名が出場しているが、女子は北京での井出樹里の5位、男子はアテネでの田山寛豪の13位が最高位。来年の第31回夏季オリ

ンピック競技大会(リオ・デ・ジャネイロ/2016)、そして第32回夏季オリンピック競技大会(東京/2020)でのメダル獲得が期待される。

オリンピック13名のうち12名から応援、そして決意メッセージが届いた。

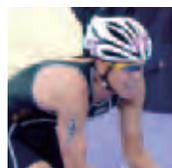


田山 寛豪

アテネ13位、
北京48位、
ロンドン20位

私にとって、オリンピックとは「夢の舞台」です。オリンピック出場という「夢」の実現に向けてどんなことにも挑戦してきました。挑戦の過程で、時には怪我をしたり、うまくいかないことが続いたり……。それを乗り越えてオリンピックのスタートラインに立った時の気持ちは「最幸」の一言です。

夢があるから頑張れる！選手の皆さん夢に向かって頑張りましょう。



細田 雄一

ロンドン43位

オリンピックはトライアスロン競技の最高峰であり、四年に一度の大舞台。前回大会のロンドン五輪は出場できる喜びでいっぱいだったので、リオ五輪では次のステップに進んでいく大会にしたいです。



山本 良介

北京30位

世界中の数え切れぬほどの選手たちの中で、誰よりも強い気持ちを持ち、誰よりも努力した、選ばれし選手のみがスタートラインに立てるトライアスロン世界最高の舞台。

競技者になった瞬間から目指したオリンピックの舞台は、自分の想像を遥かに越える最高のステージでした。

今もまたその舞台に決意を持って挑めていることに誇りを感じています。



2015年海外主要大会 世界の大会に挑戦

(2015年3月30日現在)

一年を通して世界各国でさまざまな大会が開催されている。
近年ではエリート選手のみならず、エイジ選手やパラトライアスロン選手も活躍の場を世界に広げており、今年も各地で日本人選手の活躍が期待される。

ITU世界トライアスロンシリーズ

- 3月6日(金)、7日(土) アブダビ大会(アラブ首長国連邦)(25.75km)
- 3月28日(土)、29日(日) オークランド大会(アメリカ)(54.7km)
- 4月11日(土)、12日(日) ゴールドコースト大会(オーストラリア)(51.5km)
- 4月25日(土)、26日(日) ケープタウン大会(南アフリカ)(51.5km)
- 5月16日(土)、17日(日) 横浜大会(日本)(51.5km)
- 5月30日(土)、31日(日) ロンドン大会(イギリス)(51.5km)
- 7月18日(土)、19日(日) ハンブルク大会(ドイツ)(51.5km)
- 8月22日(土)、23日(日) ストックホルム大会(スウェーデン)(51.5km)
- 9月5日(土)、6日(日) エドモントン大会(カナダ)(51.5km)
- 9月18日(金)、19日(土) グランドファイナル・シカゴ大会(アメリカ)(51.5km)

ITU世界U23選手権(51.5km)

- 9月18日(金)、19日(土) シカゴ大会(アメリカ)

ITU世界ジュニア選手権(25.75km)

- 9月17日(木) シカゴ大会(アメリカ)

ITU世界選手権

- 6月27日(土)、28日(日) ITU世界ロングディスタンストライアスロン選手権(スウェーデン・ムータラ)(154km)
- 7月18日(土)、19日(日) ITU世界ミックスリレートトライアスロン選手権(ドイツ・ハンブルク)
- 9月4日(金)、5日(土) ITU世界ロングディスタンスデュアスロン選手権(スイス・ゾフィーゲン)(190km)
- 9月18日(金) ITU世界エイジグループスプリントディスタンストライアスロン選手権(アメリカ・シカゴ)(25.75km)
- 9月20日(日) ITU世界エイジグループトライアスロン選手権(アメリカ・シカゴ)
- 9月26日(土)、27日(日) ITU世界クロストライアスロン選手権(イタリア・サルデーニャ)
- 10月14日(水)~18日(日) ITU世界デュアスロン選手権(オーストラリア・アテレード)

ITUワールドカップ(51.5km)

- 3月14日(土)、15日(日) ムールラバ大会(オーストラリア)
- 3月21日(土)、22日(日) ニュープリマス大会(ニュージーランド)
- 5月9日(土)、10日(日) チョントゥー大会(中国)
- 6月13日(土)、14日(日) ウアトゥルコ大会(メキシコ)
- 8月8日(土)、9日(日) ティサウイパローシュ大会(ハンガリー)
- 10月3日(土)、4日(日) コスメル大会(メキシコ)
- 10月17日(土)、18日(日) アランヤ大会(トルコ)
- 10月24日(土)、25日(日) トンヨン大会(韓国)

ASTCアジア選手権(51.5km)

- 6月12日(金) ニュータイペイ大会(チャイニーズ・ニュータイペイ)

ASTCアジアU23選手権(51.5km)

- 6月12日(金) ニュータイペイ大会(チャイニーズ・ニュータイペイ)

ASTCアジアジュニア選手権(25.75km)

- 6月12日(金) ニュータイペイ大会(チャイニーズ・ニュータイペイ)

ASTCアジアカップ

- 4月25日(土)、26日(日) スービックベイ大会(フィリピン)(51.5km)
- 6月20日(土) スプリント・ゴコウ大会(中国)(25.75km)
- 6月21日(日) 蒲郡大会(日本)(51.5km)
- 6月27日(土) スプリント・ブラペイ大会(カザフスタン)(25.75km)
- 7月4日(土) プレミアムアジアカップ・シーズイション大会(中国)(51.5km)
- 7月12日(日) スプリント・大阪大会(日本)(25.75km)
- 7月25日(土) シンガポール大会(51.5km)
- 9月20日(日) 村上大会(日本)(51.5km)
- 10月17日(土) プレミアムアジアカップ・チャンシュー大会(中国)(51.5km)
- 10月31日(土)、11月1日(日) スプリント・ランタオ大会(チャイニーズ・香港)(25.75km)
- 10月31日(土)、11月1日(日) パリアマン大会(インドネシア)(51.5km)

ASTCアジア大会

- 6月6日(土)、7日(日) サウスイーストアジアゲームズ(シンガポール)
- 8月16日(日) ASTCアジアパラトライアスロン選手権(フィリピン・スービックベイ)
- 8月22日(土)、23日(日) ASTCデュアスロンアジアカップ(インドネシア・シンカワン)
- 9月13日(日) ITU世界ロングディスタンストライアスロンシリーズイベント(中国・ウェイハイ)(103km)
- 10月10日(土) 世界ミリタリーゲームズ(韓国・ムンギョン)

ITU世界パラトライアスロン大会(25.75km)

- 3月1日(日) パッファローシティー大会(南アフリカ)
- 3月13日(金) サンシャインコースト大会(オーストラリア)
- 5月10日(日) マドリッド大会(スペイン)
- 5月16日(土) 横浜大会(日本)
- 5月30日(土) ロンドン大会(イギリス)
- 6月7日(日) ブザンソン大会(フランス)
- 7月19日(日) イセオ・フランチャコルタ大会(イタリア)
- 8月1日(土)、2日(日) リオ・デ・ジャネイロ大会(ブラジル)
- 8月15日(土)、16日(日) テトロイト大会(アメリカ)
- 9月5日(土)、6日(日) エドモントン大会(カナダ)

2015ITU世界パラトライアスロン選手権(25.75km)

- 9月17日(木) シカゴ大会(アメリカ)

2020 TOKYO

さらに高く 次のステージへ



Triathlon Japan
National
Team



Supported by



NTT 東日本



NTT 西日本

www.jtu.or.jp



2016 RIO DE JANEIRO



Age Group Point Ranking



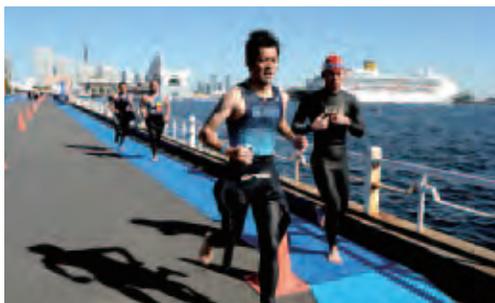
JTU Triathlon Age Group
Ranking Events

目標を明確に、 レースを楽しむ

2015JTUエイジグループポイントランキング

the home of triathlon

Supported by





全国各地で開催されるエイジグループのレースには、毎年幅広い年代の選手が参加している。JTUエイジグループポイントランキングおよびJTUロングディスタンスポイントランキングは、より多くの方にトライアスロンを楽しんでいただくことを目的につくられたランキング制度だ。

対象大会にポイントが用意され、各年代別の優勝者や上位選手には、世界選手権への公費派遣や出場権が与えられる。世界のレースへの挑戦はもちろん、大会開催地での観光や交流など多くの体験ができることから、世界選手権を目標に設定する選手も少なくない。なお、9月20日(日)に開催されるITU世界エイジグループトライアスロン選手権シカゴ大会には、2014年のエイジグループ年代別優勝者が出場予定だ。

記録に挑戦する選手から完走を目指して参加する選手まで目的はさまざまだが、各年代の選手がレースのなかでお互いを高め合い、フィニッシュ後には笑顔で讃え合う姿が見られるのも、エイジランキングの大きな魅力の一つ。選手からは「目標が明確になってきた」「『大人の運動会』のように気持ちが若返った」といった声が寄せられるなど、ますますエイジグループランキングへの注目が高まっている。

対象選手の資格と特別事項 (エイジ・ロング共通)

- 2015年1月1日～9月30日にトライアスロンのJTU強化指定(51.5kmエリート、ジュニア、ロングディスタンス)を受けていない選手で、当該大会のエイジグループ部門出場者を対象とする。なお、デュアスロン強化指定選手は、エイジランキングの対象とするが所属表示は加盟団体のみとする。
- 上記期間中にJTU強化指定(51.5kmエリート、ジュニア、強化)を受けた場合は対象外とする。ただし、指定前に獲得したポイントは有効とする(繰り下げポイントは付加しない)。なお、期間内に強化指定を外れた選手は対象としない。また強化指定選手になる可能性がある選手でエイジランキング上位を狙う場合は、JTU事務局へ事前の申請を行うこととする。
- 最終戦終了後1位が同ポイントの場合のみ以下の順で順位を決定する(シーズン中は同順位とする)。
 - 出場大会(ポイント獲得)数が多い選手
 - 高順位獲得数が多い選手(1位1大会と3位2大会は、3位2大会より上位)
 - 出場大会の該当カテゴリーの完走者数合計が多い選手
- 対象大会で年間2回以上の失格処分を受けた選手は、対象から除外することがある。

特典

<エイジグループ>

各年代別優勝者には2016年ITU世界エイジグループトライアスロン選手権への公費派遣特典を授与。各年代別10位までには2016年アジアエイジグループ選手権とITU世界エイジグループトライアスロン選手権メキシコ大会への出場権授与。

<ロングディスタンス>

各年代別上位の選手に2015年アジアロングディスタンストライアスロン選手権、2016年世界ロングディスタンストライアスロン選手権の出場権授与。

JTUエイジグループポイントランキング 対象大会(2015年1月28日現在)

※対象大会を3グループ(ABC)に分け、グループごとに定められたポイントが上位5位までに付与される。ポイント加算は4大会(Aグループ大会は4大会中2大会分を加算)。

- 4月26日(日) 豊崎トライアスロンinとみくすく(沖縄県)(B)
- 5月17日(日) ITU世界トライアスロン横浜大会(神奈川県)(A)
- 5月24日(日) 石垣島トライアスロン大会(沖縄県)(B)
- 6月 6日(土) 愛南町いやしの郷トライアスロン大会(愛媛県)(B)
- 6月14日(日) びわ湖トライアスロンin近江八幡(滋賀県)(C)

- 6月21日(日) 蒲郡オレンジトライアスロン(愛知県)(A)
- 6月21日(日) 南紀白浜トライアスロン大会(和歌山県)(C)
- 6月21日(日) サンポート高松トライアスロン(香川県)(B)
- 6月21日(日) ハワイトライアスロンin湯梨浜大会(鳥取県)(C)
- 6月28日(日) みなと酒田トライアスロンおしんレース(山形県)(B)
- 6月28日(日) 館山わかしおトライアスロン大会(千葉県)(C)
- 6月28日(日) 東京都トライアスロン渡良瀬大会(群馬県)(C)
- 7月 5日(日) みやぎ国際トライアスロン仙台ベイセツ大会(宮城県)(B)
- 7月12日(日) 大阪トライアスロン舞洲大会(大阪府)(A)
- 7月12日(日) 宮崎シーガイアトライアスロン(宮城県)(B)
- 7月19日(日) いきいき富山トライアスロン大会(富山県)(C)
- 7月19日(日) ひわさうみがめトライアスロン(徳島県)(B)
- 8月 2日(日) 大雪山忠別湖トライアスロンin東川(北海道)(C)
- 8月 2日(日) 長良川国際トライアスロン大会(岐阜県)(B)
- 8月23日(日) うつくしまトライアスロンinあいづ大会(福島県)(C)
- 9月20日(日) 村上・笹川流れ国際トライアスロン大会(新潟県)(A)

JTUロングディスタンス エイジランキング対象大会 (2014年12月30日現在)



※完走者数に応じてポイントが定められ、2大会までの合計ポイントで順位を決定する。

①200km以上

- 6月14日(日) 五島長崎国際トライアスロン(225.8km)(長崎県)
- 8月23日(日) アイアンマン・ジャパン北海道(225.8km)(北海道)
- 9月 6日(日) 佐渡国際トライアスロン大会A(235.8km)(新潟県)

②～199km※設定詳細はJTU判断とする。

- 5月24日(日) 長良川ミドルトライアスロンin
アクアフィールド102(102km)(岐阜県)
- 6月 7日(日) アイアンマン70.3セントレア
知多常滑(113km)(愛知県)
- 6月14日(日) はつかいち縦断みやじま
国際パワートライアスロン大会(77.5km)(広島県)
- 6月14日(日) 五島長崎国際トライアスロン(154km)(長崎県)
- 9月 6日(日) 佐渡国際トライアスロン大会B(127km)(新潟県)

ポイントの計算方法、および最新のランキングはこちらから

[www.jtu.or.jp/ranking/
2015/age/](http://www.jtu.or.jp/ranking/2015/age/)

[www.jtu.or.jp/ranking/
2015/age_long/](http://www.jtu.or.jp/ranking/2015/age_long/)



Age Group Point Ranking



【エイジグループ】

各年代別部門女子 ベスト3

カテゴリー	氏名	年齢(歳)	登録地	合計ポイント	出場大会数
24歳以下	1位 佐野 花夏	20	千葉	37	4
	2位 大谷明日香	22	学連	22	2
	3位 出水 菜央	20	大阪	21	2
25-29歳	1位 池野 千紘	25	愛知	41	3
	2位 若林奈々恵	27	東京	35	4
	3位 矢都木靖子	26	東京	30	3
30-34歳	1位 平下 心	32	大阪	39	3
	2位 河野美美子	32	神奈川	34	3
	3位 細川久実子	34	岩手	32	3
35-39歳	1位 中島 聖子	35	兵庫	41	7
	2位 佐藤真希子	37	富山	35	3
	3位 高間佐知子	38	愛知	29	3
40-44歳	1位 松本 華奈	41	鳥根	40	7
	2位 北吉 舞	40	奈良	34	4
	3位 高橋 美紀	41	宮城	32	4
45-49歳	1位 山澤 洋子	46	東京	38	6
	2位 中田 満子	45	愛媛	31	3
	3位 南方亜津子	49	和歌山	25	2
50-54歳	1位 寺田 香織	52	東京	40	4
	2位 藤井真由美	54	愛知	37	6
	3位 山本 彩	53	京都	27	4
55-59歳	1位 岸本 裕子	55	京都	41	4
	2位 林 優子	58	香川	34	4
	3位 中野しのぶ	55	和歌山	32	3
60-64歳	1位 宗田恵世子	63	東京	40	5
	2位 小澤 満子	61	埼玉	37	4
	3位 稲村由美子	60	埼玉	25	2
65-69歳	1位 川崎 綾子	68	千葉	41	3
	2位 松田喜美子	66	大阪	34	3
	3位 三田 伸子	68	広島	34	6
70-74歳	1位 森 祥子	71	徳島	13	1

各年代別部門男子 ベスト3

カテゴリー	氏名	年齢(歳)	登録地	合計ポイント	出場大会数
24歳以下	1位 大島 仁	23	学連	38	3
	2位 山崎 太陽	21	愛知	35	4
	3位 井辺 弘貴	19	学連	24	2
25-29歳	1位 久保 亘	29	大阪	37	5
	2位 栗原 正明	27	山梨	36	5
	3位 楠 直人	29	神奈川	29	4
30-34歳	1位 倉内 誠司	30	愛知	41	4
	2位 駒野 悠太	32	神奈川	35	4
	3位 中井 啓太	32	三重	33	4
35-39歳	1位 北原 秀樹	36	福岡	40	5
	2位 吉田 拓也	37	愛知	33	5
	3位 岡本 治樹	36	大阪	33	3
40-44歳	1位 八田 益之	42	東京	40	5
	2位 福元 哲郎	42	広島	34	4
	3位 星 秀明	41	千葉	33	5
45-49歳	1位 森下 泰秀	47	三重	41	5
	2位 飯田 博之	46	愛知	37	8
	3位 細川 益宏	49	大阪	24	3
50-54歳	1位 三須 秀明	51	東京	39	6
	2位 平田 泰久	52	三重	38	4
	3位 田中 悟	50	三重	35	3
55-59歳	1位 椎名 克行	55	新潟	41	4
	2位 堀川 光裕	56	徳島	37	4
	3位 市川 和彦	57	東京	33	3
60-64歳	1位 増場 裕	64	兵庫	37	6
	2位 横田 浩昌	61	千葉	35	3
	3位 佐藤 周平	62	東京	31	7
65-69歳	1位 三宅 光章	65	愛知	35	3
	2位 三木 慶一	65	大阪	33	3
	3位 須貝 恵吉	68	新潟	26	4
70-74歳	1位 岩本 俊信	72	東京	41	6
	2位 大島 強	71	愛知	32	5
	3位 佐野 博男	73	東京	32	3
75-79歳	1位 田中 國宣	76	熊本	37	4
	2位 斎藤 健	79	新潟	29	4
	3位 武内 眞誠	78	千葉	26	2
85-89歳	1位 伊賀 正美	85	徳島	13	1

【ロングディスタンス】

各年代別部門女子 ベスト3

カテゴリー	氏名	年齢(歳)	登録地	合計ポイント	出場大会数
24歳以下	1位 加藤 瞳	24	北海道	15	1
	2位 東尾 佳奈	22	京都	14	1
	3位 高橋 夏美	24	東京	13	1
25-29歳	1位 安曇 樹香	25	埼玉	15	1
	2位 塩谷 綾希	27	大阪	14	1
	3位 間島 恭子	29	大阪	14	1
30-34歳	1位 河野美美子	32	神奈川	26	2
	2位 沢田 愛里	34	北海道	15	1
	3位 木村智恵子	33	新潟	14	1
35-39歳	1位 伊藤 尚代	37	愛知	23	2
	2位 長尾 聡美	35	東京	22	2
	3位 村上 式子	35	愛知	19	2
40-44歳	1位 松尾由樹恵	40	兵庫	25	3
	2位 佐藤 亮子	40	神奈川	22	2
	3位 天方 美和	44	東京	21	2
45-49歳	1位 藤田 亜弥	45	静岡	20	2
	2位 南方亜津子	49	和歌山	17	2
	3位 米田 和美	45	北海道	15	1
50-54歳	1位 川上 雅子	50	長野	27	2
	2位 鹿野 美保	51	愛知	20	2
	3位 福井 幸代	50	愛知	19	3
55-59歳	1位 宮 優子	57	東京	27	2
	2位 山口由美子	59	岐阜	25	2
	3位 林 優子	58	香川	24	2
60-64歳	1位 横本美恵子	62	北海道	23	2
	2位 福田百合子	63	熊本	13	1
	3位 塚原喜美代	60	東京	13	1
65-69歳	1位 川崎 綾子	68	千葉	26	2
	2位 玉川マリ子	68	鹿児島	12	1
	3位 野澤 久子	65	埼玉	10	1

各年代別部門男子 ベスト3

カテゴリー	氏名	年齢(歳)	登録地	合計ポイント	出場大会数
24歳以下	1位 小林 祐介	23	東京	23	2
	2位 佐々木俊祐	22	東京	18	2
	3位 田中 拓希	23	広島	16	2
25-29歳	1位 寺田 悠介	27	愛知	26	3
	2位 今野 大地	28	愛知	16	2
	3位 岡野 太一	29	千葉	15	1
30-34歳	1位 丸田 聡	32	神奈川	23	3
	2位 宮本 祐基	34	静岡	22	2
	3位 米田 泰崇	30	茨城	20	2
35-39歳	1位 Ripper Jess	36	北海道	28	2
	2位 明神 吉則	39	大阪	24	2
	3位 宗平 裕	35	大阪	21	3
40-44歳	1位 太田 英輝	43	東京	23	3
	2位 関 伸介	40	新潟	20	2
	3位 小園睦大	41	東京	17	2
45-49歳	1位 水沢 一	49	長野	24	2
	2位 Morange Jean-Marc	46	東京	19	2
	3位 長澤 宏隆	48	山梨	16	2
50-54歳	1位 今井 邦博	54	大阪	25	2
	2位 Shrosbree Mark	54	神奈川	24	3
	3位 室谷 浩二	52	滋賀	24	2
55-59歳	1位 前田 紀幸	56	北海道	16	2
	2位 小林 賢郎	58	愛知	15	1
	3位 苅込 直和	56	千葉	14	1
60-64歳	1位 石飛 肇	60	兵庫	25	3
	2位 川崎 潔	61	大阪	21	2
	3位 阪本 茂樹	60	群馬	19	2
65-69歳	1位 村中 信一	66	山口	27	2
	2位 三宅 光章	65	愛知	26	2
	3位 橋本多喜男	67	大分	26	2
70-74歳	1位 中川 隆二	70	兵庫	29	2
	2位 人見 光義	71	神奈川	14	1
	3位 猪浦 徹夫	70	静岡	13	1
75-79歳	1位 戸塚 忠	76	静岡	25	2
	2位 斉藤 健	79	新潟	10	1
	3位 石黒 修吉	78	新潟	8	1

日本のトライアスロンの歴史

1974年(昭和49年)	アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴで、初のトライアスロン大会開催
1981年(昭和56年)	日本初の皆生トライアスロン大会が鳥取県米子市で開催
1985年(昭和60年)	沖縄県宮古島市でストロングマン、滋賀県でアイアンマンジャパンびわ湖、 熊本県天草市で日本初の51.5kmの天草国際トライアスロン大会が開催
1989年(平成元年)	国際トライアスロン連合(ITU)創立。第1回ITU世界選手権がフランス・アビニオンで開催
1990年(平成2年)	NTTトライアスロンサーキットスタート
1991年(平成3年)	アジアトライアスロン同盟(ASTC)設立
1994年(平成6年)	日本全国の組織・団体を統合した「日本トライアスロン連合(JTU)」が設立
1998年(平成10年)	財団法人日本体育協会に加盟
1999年(平成11年)	社団法人格取得。財団法人日本オリンピック委員会(JOC)に加盟
2000年(平成12年)	シドニー・オリンピックで正式競技に。日本選手女子は庭田清美14位、 平尾明子17位、男子は小原工21位、福井英郎36位、西内洋行46位
2004年(平成16年)	アテネ・オリンピック。日本選手女子は関根明子12位、庭田清美14位、 中西真知子20位、男子は田山寛豪13位、西内洋行32位
2006年(平成18年)	アジア競技大会カタール大会にトライアスロン初登場。 日本選手女子は上田藍2位、関根明子3位
2007年(平成19年)	ITUワールドカップ・エイラート大会(イスラエル)で、 田山寛豪が日本選手ワールドカップ初優勝
2008年(平成20年)	北京オリンピック。日本選手女子は井出樹里5位、庭田清美9位、 上田藍17位、男子は山本良介30位、田山寛豪48位
2009年(平成21年)	国民体育大会/トキメキ新潟国体でトライアスロンが公開競技に
2010年(平成22年)	第1回ユースオリンピック・シンガポール大会で佐藤優香が金メダル獲得。 アジア競技大会広州大会で、日本選手女子は足立真梨子優勝、土橋茜子2位、 男子は細田雄一優勝、山本良介2位
2012年(平成24年)	ロンドン・オリンピック。日本選手女子は足立真梨子14位、井出樹里34位、 上田藍39位、男子は田山寛豪20位、細田雄一43位。 ITU世界トライアスロングランドファイナルオークランド大会で松本文佳がジュニア女子優勝
2013年(平成25年)	公益社団法人日本トライアスロン連合(JTU)に改組
2014年(平成26年)	ITU世界トライアスロン横浜大会で上田藍が2位 ITUが25周年、JTUが20周年、トライアスロン生誕40周年を迎える。 アジア競技大会仁川大会で、日本選手女子は上田藍優勝、井出樹里2位、 男子は細田雄一優勝、田山寛豪2位、 男女混合リレーでも日本チーム(佐藤優香、田山、上田、細田)が優勝。
2016年(平成28年)	第31回夏季オリンピック/第15回夏季パラリンピック競技大会(リオ・デ・ジャネイロ/2016)開催。 国民体育大会/希望郷いわて国体で、トライアスロンが初の正式競技に
2020年(平成32年)	第32回夏季オリンピック/第16回夏季パラリンピック競技大会(東京/2020)開催

トライアスロンの基本

トライアスロン(Triathlon)は、スイム(水泳)・バイク(自転車)・ラン(ランニング)を連続して行うスポーツで、ラテン語の「3」を指すtriと、「競技」を指すathlonを合わせた造語。マルチスポーツとは、複数の種目の連続。

競技距離はさまざま(総合距離12.875~226km)で、年齢層が広いことから「生涯スポーツ」として広がっている。その他、基礎体力づくりや教育の一環としても活用される。

Transition トランジション

種目間の転換は「トランジション(Transition)」と呼ばれ、
いかに速く次の競技に移るかが鍵。「第4の種目」といわれる。

Triathlon

トライアスロンファミリー **オリンピック**
Olympic



ITU世界トライアスロンシリーズ
ITU World Triathlon Series

ITU世界トライアスロンシリーズ

スタンダードディスタンス(51.5km)とスプリントディスタンス(25.75km)で競われる世界最高峰の大会。トップアスリートによる「エリート部門」と一般参加の「エイジグループ部門」があり、2日以上にわたって開催される。

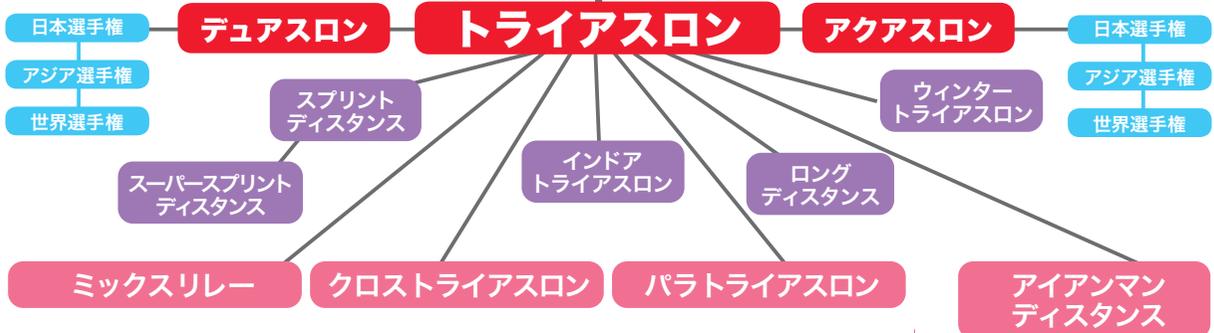
ワールドカップ
World Cups

大陸別選手権および大会
(アジア選手権・アジアカップ・アジア大会・ユースオリンピック)
Continental Championships and Continental Cups

各国の選手権および大会
(日本選手権・ジャパンカップシリーズ・国体など)
National Championships and National Events

国内大会

スタンダードディスタンス“オリンピックディスタンス(通称)”



新しいトライアスロンの仲間



ミックスリレー

男女各2名がチーム。スイム250～300m・バイク5～8km・ラン1.5～2kmのコースを4名が連続してリレー。スピードある展開と競り合いが特長。2014年アジア大会(インチョン)で採用決定。



クロストライアスロン

自然の野山で、スイム1km・マウンテンバイク20～25km・クロスカントリーラン6～8kmで競う。2011年、初めての世界選手権が行われた。



パラトライアスロン

身体の機能障害をPT1～5の五つに分け、カテゴリー別にスプリントディスタンスで競われる。2016年のリオ・デ・ジャネイロからパラリンピック正式競技となる。

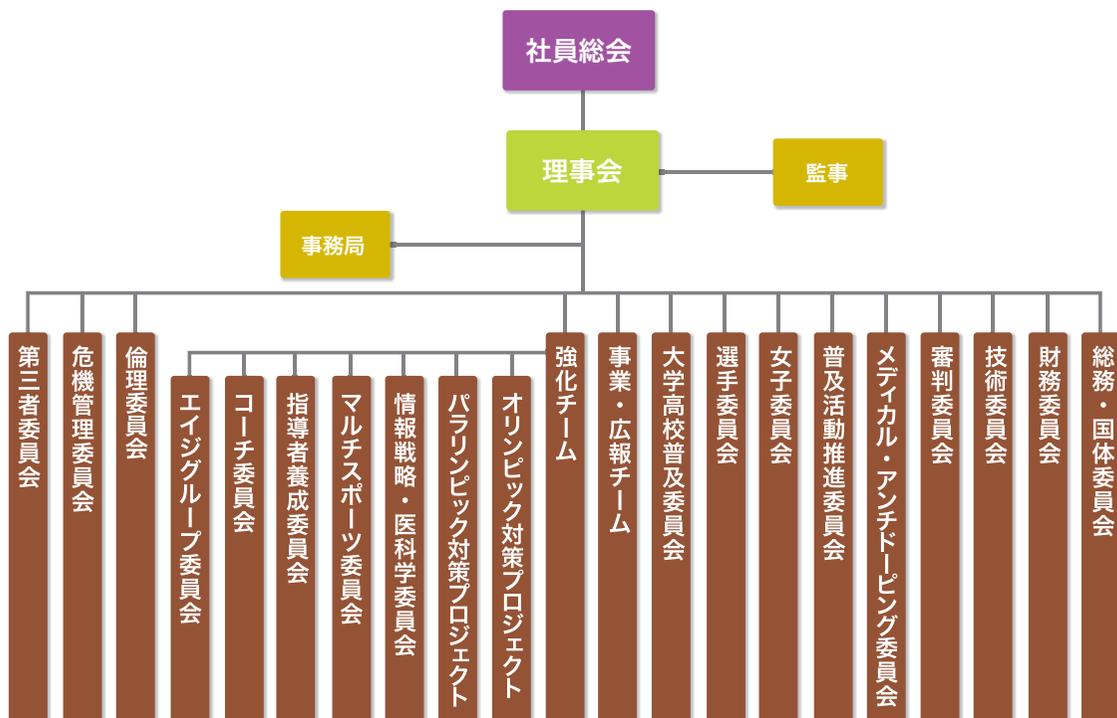


アイアンマンディスタンス

1978年、アメリカ・ハワイのオアフ島が発祥。スイム3.8km・バイク180.2km・ラン42kmで競う。ウルトラ・ロングディスタンスとも称する。ハーフアイアンマンもある。

公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU) 組織図

加盟団体 (全国47都道府県競技団体)



ブロック	団体名	団体コード	電話番号	会長	社員
北海道	北海道トライアスロン連合	101	011-381-8862	堀井 学	荻野 智満
東北	青森県トライアスロン協会	202	090-9740-5161	高橋 修一	石川 則文
	岩手県トライアスロン協会	203	0198-62-7446	三上 雅広	三上 雅広
	宮城県トライアスロン協会	204	022-796-7372	石川 光次郎	木幡 智彦
	秋田県トライアスロン協会	205	018-839-1700	小宅 錬	阿部 憲悦
	山形県トライアスロン協会	206	0237-43-2850	蒲生 光男	蒲生 光男
	福島県トライアスロン協会	207	024-582-5171	栗城 春夫	穂崎 一豊
	関東	茨城県トライアスロン協会	308	0299-63-2323	新谷 正義
栃木県トライアスロン協会		309	090-2309-7873 (櫻井)	福嶋 稔	櫻井 潤一郎
群馬県トライアスロン協会		310	0270-31-0018	山口 裕行	小平 博
埼玉県トライアスロン連合		311	090-7216-3528	浅田 浩之	関根 範之
千葉県トライアスロン連合		312	090-7841-5441	臼井 正一	西廣 晴光

ブロック	団体名	団体コード	電話番号	会長	社員
	神奈川県トリアスロン連合	314	0465-20-6538	河野 太郎	渡邊 英夫
	山梨県トリアスロン連合	319	055-235-0604	今井 久	望月 美和
東京	(一社)東京都トリアスロン連合	413	0422-49-0551	小田原 潔	小田原 潔
北信越	新潟県トリアスロン連合	515	0256-33-0434	長谷川 伸次	長谷川 伸次
	富山県トリアスロン協会	516	076-429-1250	野上 浩太郎	竹花 伸一
	石川県トリアスロン協会	517	076-241-1383	堀野 正明	堀野 正明
	福井県トリアスロン協会	518	0776-21-2073	光野 稔	朝川 金徹
	長野県トリアスロン協会	520	—	北島 義仁	芳川 千恵
東海	岐阜県トリアスロン連合	621	0584-54-7447	若山 春夫	若山 春夫
	静岡県トリアスロン協会	622	080-6917-7352	杉山 悟	袴田 真吉
	愛知県トリアスロン協会	623	052-981-1199	國分 孝雄	牛島 章博
	三重県トリアスロン協会	624	059-383-8991	山田 康晴	山崎 和宣
近畿	滋賀県トリアスロン協会	725	080-2437-1997	田島 一成	川村 好平
	京都府トリアスロン協会	726	075-393-8277	北神 圭朗	細見 敦史
	大阪府トリアスロン協会	727	090-9097-6353	田中 義明	難波 勉
	兵庫県トリアスロン協会	728	06-6491-9989	末松 信介	山本 順子
	奈良県トリアスロン協会	729	0744-23-2525	田野瀬 太道	林田 一真
	和歌山県トリアスロン連合	730	0739-26-2378	関 康之	内平 英彦
中国	鳥取県トリアスロン協会	831	0859-32-8351	築谷 敏郎	家高 謙児
	島根県トリアスロン協会	832	090-3630-9316	小沢 秀多	母里 充
	岡山県トリアスロン協会	833	090-5373-8866	繁田 政男	繁田 政男
	広島県トリアスロン協会	834	080-4555-4780	亀井 清光	亀井 清光
	山口県トリアスロン連合	835	0835-24-5075	二井 関成	中嶋 博志
四国	徳島県トリアスロン協会	936	088-625-2864	河野 芳弘	西岡 健
	香川県トリアスロン協会	937	087-835-1283	大山 一郎	出本 博之
	愛媛県トリアスロン協会	938	089-927-3300	佐々木 和光	石田 治
	高知県トリアスロン連合	939	088-854-5673	川崎 寛典	今西 文明
九州	福岡県トリアスロン連合	040	090-8625-5467	出口 哲章	出口 哲章
	佐賀県トリアスロン協会	041	0952-30-3638	久保 直人	久保 直人
	長崎県トリアスロン協会	042	090-5732-8957	行成 壽家	林 一彦
	熊本県トリアスロン連合	043	096-325-1978 / 090-4775-3748	富田 達朗	久我 正大
	大分県トリアスロン連合	044	0978-62-5939	村上 幸生	村上 幸生
	宮崎県トリアスロン連合	045	0983-42-1541	押川 紘一郎	鹿嶋 晋
	鹿児島県トリアスロン協会	046	050-3440-3479	保岡 興治	永田 はるよ
沖縄	(一社)沖縄県トリアスロン連合	047	050-3636-0586	宮城 直久	宮城 直久
	日本学生トリアスロン連合	—	03-5937-6711	宇佐美 彰朗	—

2015年 トライアスロン動向 大会運営の広がり



2015年3月28日(土)に開催された「第4回トライアスロン・フォーラム(大会運営・ディレクターズ会議)」において、「大会運営の広がり」をテーマにトライアスロンの動向についての発表が行われた。愛好者の増加に伴い、トライアスロンの大会も常に変化し続けている。

競技人口(愛好者)推移

日本で初めてトライアスロンが開催された1981年から約30年の間に、大会数、愛好者数は約60倍以上に増加。2013年には290大会、愛好者数は約37万5,000人を数え、右肩上がりで成長を遂げている。

携帯電話(スマートフォン含む)の普及率と比較すると、携帯電話の普及率が大きく増えた2000年代初期と、スマートフォンが普及し始めた2010年前後に愛好者数が大きく増えたというデータも見られた。

競技に関わる変遷

レースウエア

2000年のシドニー・オリンピックにおいて、レースウエアはセパレートタイプが一部採用されていたが、2013年からは前開きおよび前ファスナー付きの競技ウエアの使用が禁止された。これは、選手のユニフォーム前部がはだける姿に対して、他のスポーツにあるような清廉さではなく、見苦しい(美しくない)姿として映るという指摘が相次いだため。

現在ではワンピースタイプ、バックファスナーのウエアが一般的となっている。

レースナンバー

シドニー・オリンピックではゼッケンを着用していたが、現在はボディマーカースールを採用。国名や選手名は直接ユニフォームに記載されている。

エリート選手は専用のロゴシール(シーズンチャンピオン)や五輪ロゴのボディシール(オリンピック)を付ける場合もある。また、それまでエリートのみだったボディマーカースールが、2014年のITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会からエイジ選手にも配布されるようになった。

レース機材

レースに関わる機材が、大会ブランディングの重要な要素となっている。

例えばバイクラックは、競技性を高めるシンプルなデザインと、大会ロゴやイメージデザインが施され大会ブランディングに一役買っている。

大会を彩るスポンサーバナーについては、選手の走行中に邪魔にならない仕様にするなど配慮がなされている。

計測の変遷 黎明期：1984～1987年

海から上がる選手を止め、一人ひとりのレースナンバーを控え、ストップウォッチによるタイムを表計算ソフトなどに入力していた。正確さ、労力、かかる時間などすべてに問題があった。

デンキー入力：1988～1991年

通過する選手のレースナンバーを入力するだけで、タイムが記録される専用のプログラムが開発された。大会終了から結果発表まで画期的に早くなったが、番号が見えにくい、入力ミス、レースナンバーの読み上げを間違えるなどの問題が発生した。

バーコード入力：1991～1992年

ラミネート加工をしたバーコードを各選手に3枚持たせ、スイ

ム、バイク、ラン終了時に計測テントで回収して読み込む。選手の通過はスムーズになったが、バーコードが濡れて読み込みができない、途中でバーコードを落とすと正確性に欠ける部分があった。

TIRIS：1992～2002年

テキサス・インスツルメンツ社の産業用計測器(家畜の管理用)「TIRIS」を初めてスポーツに応用。反応が速く、音で選手に伝わるため、係員と選手が双方で通過の確認ができた。

入水、出水の管理も完璧でトライアスロンには最適だったが、受信機と発信機(選手)が1対1でないと反応しないという欠点も見られた。しかしスイム1,500m、参加者500名規模の大会であれば発信機が1台でも十分対応できたため、エリートの大会でも使用されていた。現在でも使用している大会がある。

MATRIX POWERTAG：2002～2012年

マトリクス社がマラソン用に開発したMATRIX POWERTAGは、日本初のスポーツ計測を目的につくられた計測チップ。本来は防水ではないが、特殊な加工を施し初めてトライアスロンに使用。

計測マットの上を多数が同時に通過できるこのシステムは、自転車に乗ったままでも計測ができる画期的なものだったが、防水加工が自然劣化し、競技中に計測チップが壊れる事案がたびたび起きていた。

マイクロトーク社 J-Chip：2012年～現在

計測チップの技術はマトリクス社と同じだが、チップが完全防水仕様となった。LAN経由で複数のPCと同時にデータのやりとりができるため、リアルタイムで複雑な処理が可能に。ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会のような、複数のメディアへのリアルタイム配信やMC実況の要求などにも応えることが可能になった。

<今後、使い捨てチップの可能性も視野に>

現在既に、1万人規模のマラソン大会では使い捨てが主流。シューズに取り付けるタイプとナンバーカードの裏に張り付けるタイプがあるが、いずれも読み取り率が悪かったり、水に浸すことができないなど、現時点では命を預かるトライアスロンには不向き。将来、信頼性のあるものができる可能性も十分に考えられる。

競技人口(愛好者)は年々増加傾向にあり、それに伴いウエアや機材などもさまざまな変化を遂げている。今後、SNSやGPS機能などITをより取り入れたサービスが大会運営を支えていくことが考えられる。



トライアスロン参加者・観戦者調査報告 求められる質の高い大会

2009年から日本トライアスロン連合と早稲田大学スポーツビジネスマネジメント研究所(代表:原田宗彦)が共同で行っている「トライアスロン参加者・観戦者調査」。6年目の2014は初開催の南紀白浜トライアスロン大会の事前・事後調査と、2014世界トライアスロンシリーズ横浜大会の参加者、第20回日本トライアスロン選手権の観戦者の調査を実施した。

南紀白浜トライアスロン大会 事前・事後調査概要

2014年5月11日(日)に開催された南紀白浜トライアスロン大会で質問用紙を使用した調査を実施。5月10日(土)の競技説明会会場で用紙を配布し、その場(あるいは競技説明会終了後)で回収。また11日の手荷物引き換え場前でも用紙を配布し、その場で回収した。

<質問内容例>

(事前)

- ・性別、年齢、居住地域、職業、自由裁量所得、同伴者数など
- ・トライアスロンの社会化について(始めた年齢、時期、きっかけ、ロンドン五輪の観戦経験、トライアスロンに向いていると感じた点、影響を受けた人など)
- ・現在の意識と状況(過去3年の大会参加数、練習相手、使用用具、過去1年間でトライアスロンに使用した金額など)
- ・生涯スポーツとしての継続意識
- ・経済効果(開催地滞在中の行動、観光に使用した金額)

・大会について(参加した理由、観光動機、大会スポンサーについてなど)

(事後)

・サービスクオリティ(アクセス、宿泊施設、競技会場、大会、観光など)

<回答の一部>

- 平均年齢：42.7歳
- 自由裁量所得：平均56,937円
- 移動は8割弱が自家用車、97.8%が宿泊
- 同伴者数：2.8人
- 過去3年間の大会参加数：5.8回
- 過去1年間のトライアスロン費用：475,632円
- 今後の競技継続：95.6%が肯定的

ITU世界トライアスロンシリーズ 横浜大会参加者調査概要

2014年5月16日(土)、17日(日)に開催されたITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会では、17日のエイジレース参加者を対象に調査を実施。競技説明会前に用



紙を配布して終了後に回収。南紀白浜大会と同様の質問内容に加え、

- ・「横浜のスポーツ」のイメージについて
- ・ISO20121 認証について
- ・環境意識と環境配慮行動について

など、横浜大会に合わせた質問を加えて調査を行った。

<回答の一部>

- ロンドン五輪のテレビ観戦は横浜大会が80.5% (南紀白浜大会が72.6%)
- 競技開始のきっかけは競技経験が大きな要因 (横浜大会も南紀白浜大会も水泳、陸上、自転車経験の順で影響している)

リゾート型と都市型の特性

関西圏の観光地として地位を確立している南紀白浜で初めて開催された南紀白浜トライアスロン大会は、レース参加はもちろん、観光も兼ねて家族と訪れる参加者が多かった。そのほとんどが宿泊を伴うところを見ても、リゾート型トライアスロン大会としての特性が出ていると言える。

また、自由裁量所得が平均56,937円、過去1年間のトライアスロン費用が平均475,632円と、それぞれ過去の調査と比べ高い値を示している。さらに今後の競技継続についても95.6%が肯定的な意見を持っており、自由裁量所得に余裕があるリピーターが、リゾート地の初開催に魅力を感じて参戦している様子がうかがえた。

一方ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会は神奈川県や東京都など開催地の横浜近郊からの参加者が多く、滞在日数も日帰りよりもっとも多い結果となった。同伴

者数も昨年より若干増えたものの、一人で参加する選手が半数以上を占めた。レース用具を持参しても移動がしやすく、一人でも気軽に参加できることが本大会の特性といえる。

トライアスロン人口増加には

2012年に開催されたロンドン五輪のトライアスロン競技のテレビ観戦率については前述の通りだが、経験者はこれを機にレースに参戦したいと考えたものの、未経験者の競技開始のきっかけにはなっていない。

競技開始のきっかけは、水泳や陸上の経験が元となっていた。従って、今後は競技経験者、特に水泳経験者へのア



ブローチが有効であると考えられる。

第20回日本トライアスロン選手権 観戦者調査概要

2014年10月26日(日)に開催された第20回日本トライアスロン選手権では、観戦者の動向を調査すべく、スイム・バイク・ラン会場周辺で質問用紙を配布した。

<質問内容例>

- ・性別、年齢、居住地域、職業、自由裁量所得、同伴者など
- ・観戦における3種目の特性(一番面白い種目・面白くない種目、トライアスロン以外に観戦するスポーツ)
- ・観戦理由(過去のスポーツ経験なども含む)
- ・観戦の動機・満足度(再観戦の意思など)
- ・トライアスロンの認知
- ・認知したスポンサー

<回答例>

- 「パフォーマンス」が特に強い観戦動機
- 「トライアスロン観戦が好き」「好きな選手がいる」ことが主な観戦理由
- もっとも面白い種目は「バイク」

選手の詳細な情報提供を

観戦の動機として「美的」「交流」「ツーリズム」「達成」「技能レベル」「知識」「パフォーマンス」「ドラマ」が挙げられ、特に「パフォーマンス」が強い観戦動機となっている。特に女性の観戦者はこれらに対する意識が高く、「見る」



スポーツとしてトライアスロンに魅力を感じている。

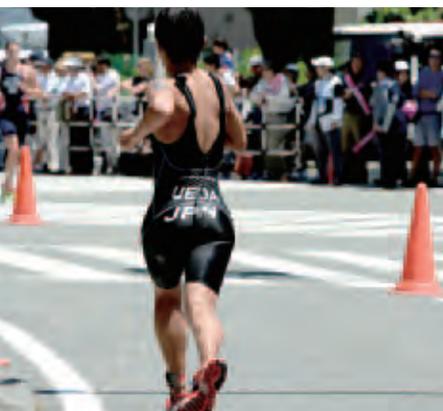
観戦理由では「好きな選手がいる」という回答が多いことから、選手の詳細な情報提供が観戦者の増加に効果的と考えられる。さらに「間近でレースの迫力を体感できる」ことに魅力を感じている観戦者も多く、特にバイクの人気が高かった。これらから間近で観戦できるトライアスロン独特の応援形態が、観戦者の満足に繋がっているといえる。



2015 JTU OFFICIAL SPONSORS



2015年4月22日現在





がんばれ東北!
がんばろう日本!
STURDY TEAM
JAPAN